

### シミュレーションの条件設定の考え方について

シミュレーションによる解析は、気象条件を固定し、東アジア大陸もしくは国内の大気汚染物質排出量の設定年を変化させることで、大気汚染物質排出量の変化が光化学オキシダント生成にどのような影響を与えるかという観点で実施する。気象条件および大気汚染物質排出量の設定方法は以下のように行った。

- ✓ 気象条件の違いによって光化学オキシダント生成に与える影響が異なることを排除するために気象場を 2009 年に固定する。2009 年を設定した根拠は、2001～2010 年を対象とした気象要素の異常年検定結果による。
- ✓ 大気汚染物質排出量については、2001 年および 2009 年を設定する。これは、東アジア大陸については、大気汚染物質排出量が増加する前と後の状況(図 1 参照)を、国内については、大気汚染物質排出量が減少する前と後の状況(図 2 参照)を想定している。

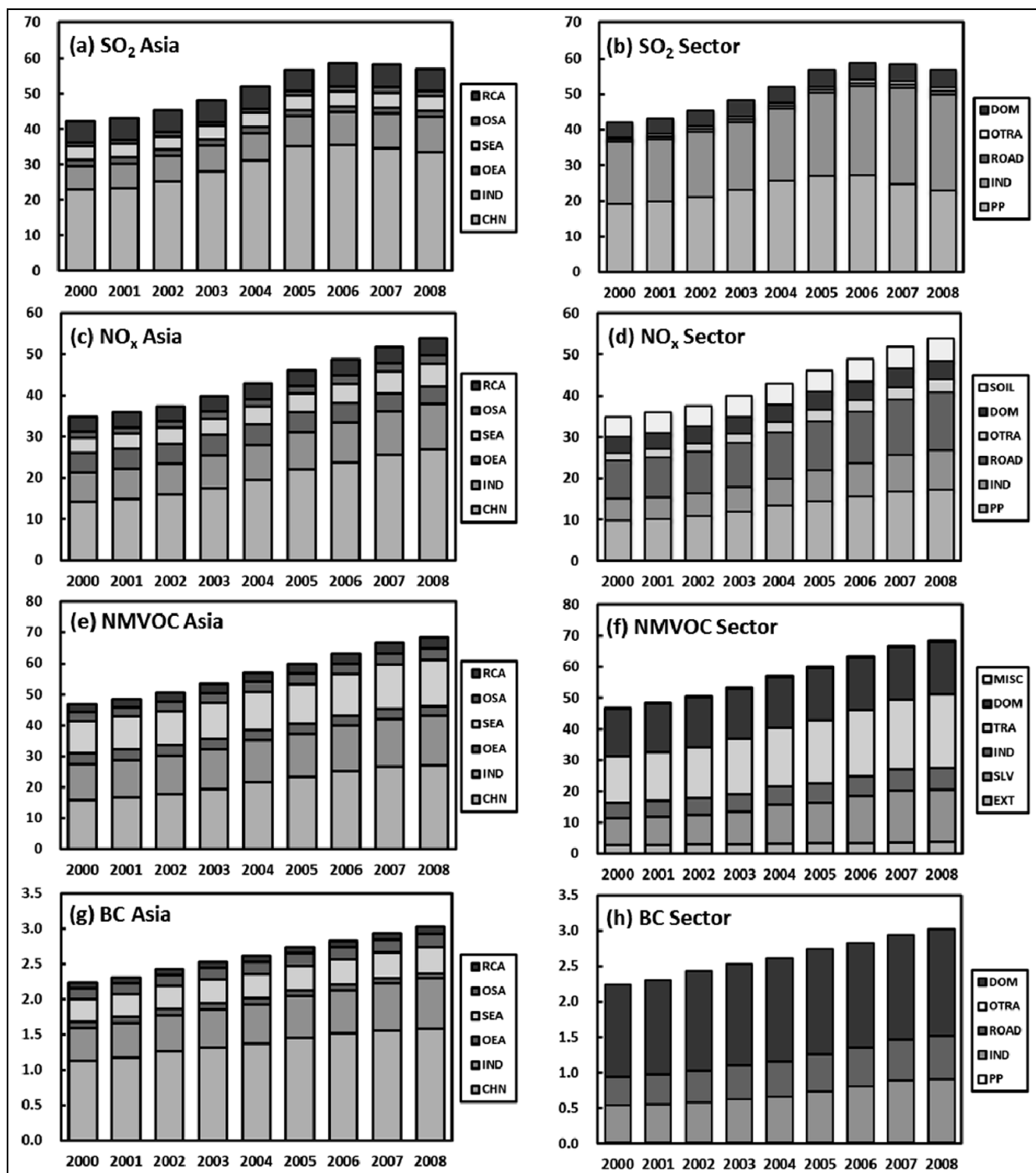


図 1 アジアにおける年間排出量（地域別（左）およびセクター別（右））

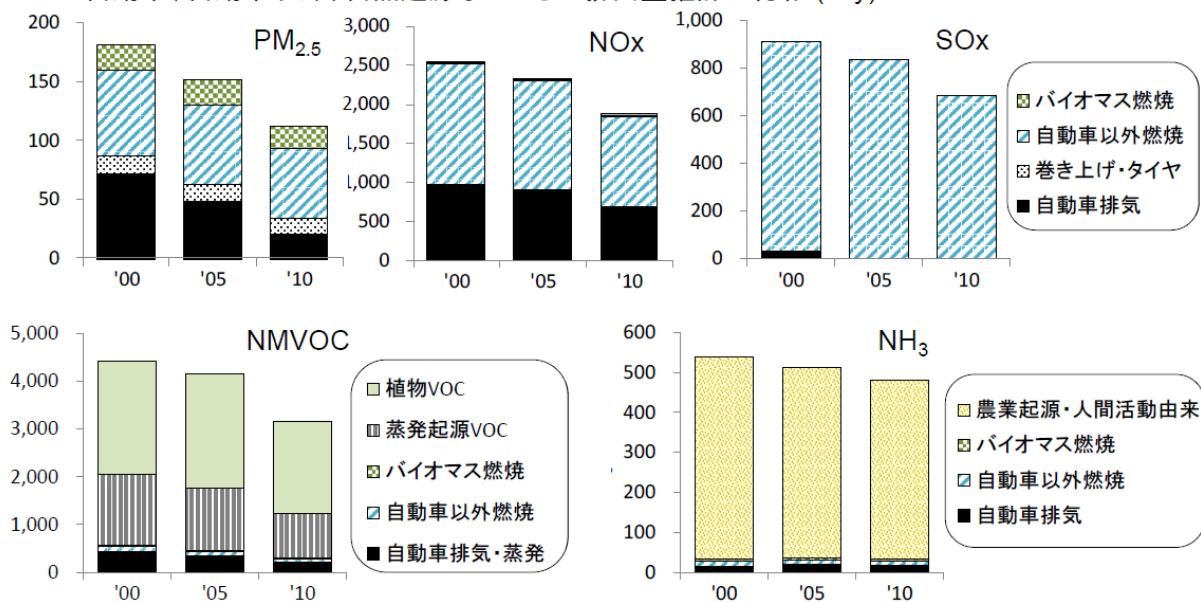
地域：CHN=中国、IND=インド、OEA=中国を除く東アジア、SEA=東南アジア、OSA=インドを除く南アジア RCA=ロシアおよび中央アジアのうちアジア域に含まれる地域

(黒川, 2014)

# 2010年度の排出量推計

## -3 すべての発生源からの排出量推計

自動車、自動車以外、自然起源などからの排出量推計の総和 (kt/y)



すべての排出量は減少傾向、自動車排気蒸発の寄与は縮小傾向

図 2 排出量推定結果

(森川, 2015)

(参考文献)

- ・黒川純一；アジアにおける排出インベントリに関する研究，大気環境学会誌，第49巻，第4号（2014）
- ・森川多津子；JATOPⅡ 成果発表会資料 大気研究 WG 報告 -JATOPⅡ 3ヶ年の研究成果：Part1-